

# 平成 27 年度第 4 回文系チャレンジ講座を実施しました

平成 27 年度第 4 回文系チャレンジ講座が、平成 27 年 10 月 14 日、「障害のある人の福祉」をテーマに、本学教育福祉学部の廣野俊輔先生によって行われました。

遠隔配信された大分<sup>おぎのだい</sup>雄城台・大分鶴崎・日田・安心院<sup>あしむ</sup>・高田・大分西・三重総合・臼杵の 8 校の各高校から 143 名の高校生が受講しました。

はじめに廣野先生は「障害をもっている人は、生活のどのようなところで不便を感じているのでしょうか。生活のさまざまな場面でどのような支援があると生活がしやすくなるのでしょうか。このような問題を、障害がある人が実際に利用する道具を用いながら、高校生のみなさんと一緒に考えていこうと思います。」と、受講生に語りかけました。

廣野先生は、「障害」の定義を「障害者基本法」から説明し、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害（法に基づく場合は「障害」と記載）について紹介しました。「障害者基本法」では、「障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態」と定義され、社会的障壁には、駅にエレベータがあるか（大分県内では 5 箇所設置）という物理的障壁だけでなく偏見や制度など社会的障壁も含まれると説明しました。



身体障害については、「身体障害者福祉法」で等級が規定され、視覚障害や聴覚障害、手足が不自由である体幹障害、外見的にはわかりづらい内部障害（臓器障害）についても紹介し、全国で約 394 万人が身体障害者手帳を所持しており、高齢化と密接に関係していると語っていました。

知的障害については、「知的障害者福祉法」があり、その基準は都道府県により異なり全国には約 74 万人が療育手帳をもっています。また、精神障害は、統合失調症や気分障害（例えば、うつ病など）によって社会生活や日常生活に支障がでる状態で、統合失調症は約 100 人に 1 人、うつ病などはさまざまなデータがありますが、15 人に 1 人は罹患するという結果もあります。

続いて、「障害」がある人の福祉について、①お金のこと、②介助のこと、③働くこと・働くための練習、④補装具などに講義は移りました。特に、③については、大分県内で「障害」がある人を多く雇用している会社（特例子会社という）の例をあげ、九州では福岡県に次いで 2 番目に多いということがわかりました。④については、白杖の実物を提示し、「障害」がある人が安心安全に生活できるようにするには何が大切かについて受講生に問いかけました。



講座後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」（97%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（99%）、「授業量は適切であった」（96%）、「わかりやすかった」（97%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」（98%）、という評価ができました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」（97%）、「映像はよく見えた」（91%）という結果ができました。受講生の具体的な声として「障がいを持っている人との接し方に不安があったが、自信を持って接することができそうに思った」、「福祉関係に進みたいと思っているので、先生の具体的な説明はありがたかった」、「企業が障がいを持つ人を雇用する制度があることを知った」「外面的障がいだけでなく、精神的な内面の障がいもあり、範囲が広いことがわかった」「日頃意識していなかったが、駅などのエレベーターの設置などの設置が、障がいに優しい環境であることに気がついた」など多くの感想が寄せられ、大学で学ぶ内容の深さと共に福祉の内容に広さに気づいた受講生が多かったことが、アンケートから判明した講座でした。



講座後のアンケート調査では、「総合的に判断して良かった」（97%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（99%）、「授業量は適切であった」（96%）、「わかりやすかった」（97%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んだ」（98%）、という評価ができました。遠隔配信については、「音声は良く聞こえた」（97%）、「映像はよく見えた」（91%）という結果ができました。受講生の具体的な声として「障がいを持っている人との接し方に不安があったが、自信を持って接することができそうに思った」、「福祉関係に進みたいと思っているので、先生の具体的な説明はありがたかった」、「企業が障がいを持つ人を雇用する制度があることを知った」「外面的障がいだけでなく、精神的な内面の障がいもあり、範囲が広いことがわかった」「日頃意識していなかったが、駅などのエレベーターの設置などの設置が、障がいに優しい環境であることに気がついた」など多くの感想が寄せられ、大学で学ぶ内容の深さと共に福祉の内容に広さに気づいた受講生が多かったことが、アンケートから判明した講座でした。